

リーディング DXスクール事業【実践事例】

久喜市立三箇小学校(埼玉県)【協力校】

【取組内容】「ポータルサイト」の充実による小規模校における「無理のない」校務 DXの推進

三箇小ポータル

ホーム シーズン 学校説明 校長室 連絡 保健 学校行事 ICT 資料共有 研修 発注等 その他



★R6三箇小「校務DX」のミッション★

- 1 学校ポータルサイトを核とした先生方への支援
- 2 チャットスペースの積極的な活用
- 3 Google workspace へのデータ移行
- 4 行事におけるサイトの活用
- 5 校内研修での活用
- 6 業務改善の観点から

⇒小規模校であり職員の数が少ない。ICTが苦手な職員がいる。その中で「無理なく」校務のDX化を進めたい！！

★方策① サイトへの情報の一元化「ホーム」画面の内容の精選及び「ページ」の精選

「管理人のつぶやき」「更新事項」「緊急の連絡欄」の設置。会議関係のデータはいつでもここから。出張・日直関係で必要なものもそれぞれ一箇所に。「ページ」はまとめるものはまとめて、使いやすく。

★方策② 補充計画のデジタル化

全教職員での情報共有。アレルギー除去票との連動。

★方策③ チャットスペースの使い分け

「職員室チャット」「安全チャット」「保健・事務チャット」「homebookチャット」「研修」の5つにすみわけ。

★方策④ 生徒指導情報共有

スプレッドシートを活用した生徒指導・教育相談事項の記録。重大事態事項にそなえた時系列での記録。全職員で見られるようにしての共通理解。次学年への引継ぎ。市教委提供の学校生活アンケートの活用。

★方策⑤ 会議の記録のデジタル化

これまで手書きで記録用紙に書いていたものをドキュメントでの記録に。

★方策⑥ 安全点検におけるペーパーレス化・結果の即時確認

フォームで回答→チャットに投稿→回答をひと目で確認→チェック表で提出チェック。

★方策⑦ ふとした時に必要になる学校組織関係の情報を一つに

主任関係・グラウンドデザイン・学校目標・縦割り班名簿・授業時数・日課表・全学年時間割・行事予定・・・

★方策⑧ 週報のデジタル化(ポータル上での確認)

「週報」のデジタル化→ポータルから、全職員がいつでも確認可。

★方策⑨ 保健管理① アレルギー除去・健康観察

除去献立を保護者が確認→その情報を入力。ポータルサイトから全職員が閲覧、確認可能。

★方策⑩ 保健管理② クラスルームでの各種保健関係の連絡

行事ごとに専用の健康観察フォームを作成し、毎日健康状態を入力する。

★方策⑪ 行事のサイト・運動会に関する情報の一元化

運動会を運営していく中で、全てを1つの場所に保管し、共有、随時変更もお知らせ等で伝えていく。

★方策⑫ 研修での活用

校外で行われた研修等で使用した資料の蓄積・共有。

★方策⑬ 学年行事(修学旅行・林間学校)

行事説明会で使用したスライドや説明会の様子の画面録画等を共有。欠席者も後で確認可。クラスルームに情報を集約

★方策⑭ ICT関係の情報提供

先生方に役立つかもしれないクラウドブック関係の情報を定期的に発信。

★方策⑮ 特別支援関係の情報提供・就学支援委員会

定期的に特別支援に関する情報をアップ。

★方策⑯ 業務改善(いつでも可能、デジタル「カエル会議」)

行事の反省は準備から実施後まで随時入力可・次年度の計画に反映させ、業務削減の観点で変えるところは思い切っ

て変えていく。

★実践してみても有効だった点

★方策①

情報主任から確認してほしいことを確実に見てもらえる。限られた時間で、更新事項だけ素早く確認可。「いつでも」「すぐに」会議記録の確認可。日直の仕事の漏れ。

★方策②

担任が不在の学級の自習課題をひと目で確認でき、補充者変更への対応がしやすい。

★方策③

「職員室チャット」で埋もれてしまいがちになっていた「大事な連絡」を見落とすことが減った。

★方策④

一目見て分かる。管理職、生徒指導主任への報告・連絡・相談・確認がスムーズにできる。

★方策⑤

同時編集、会議の場で出た意見をその場で文書に盛り込むことができる。リンクを貼ることで、関係資料をすぐにその場で確認。印刷の手間の削減。

★方策⑥

一度、型を決めれば、毎月、元データをコピーするだけでよい。点検場所・項目の「追加・削除」もすぐに行える。未提出者のチェックのしやすさ。

★方策⑦

組織関係の情報は、とりえずここを探せば分かる。まとまっている安心感。

★方策⑧

急に特別教室を利用したい場合の確認。変更があった時の修正のしやすさ。出張者の補充関係で便利。支援学級の交流関係の確認のしやすさ。

★方策⑨

1つ入力すれば自動的に補充計画などの関連ページに反映され、入力漏れ、確認ミスを防ぐことができる。特に、補充計画への自動反映により、担任以外の職員が補充に入る時も漏れなく情報共有できる。

★方策⑩

関数を使って、「今日」と「昨日」の分のデータだけ別のシートに飛ばす担任の確認のしやすさアップ

★方策⑪

必要なデータを全てGoogleアプリで作成し直したことで、全てクラウド上で管理ができるようになった。

★方策⑫

重要な資料の蓄積ができる。見たいと思った時に、すぐに取り出すことができる。

★方策⑬

聞き逃した等の理由での後からの質問の減少。保護者への連絡の手間の削減。

★方策⑭

先生方への情報共有の一手段として機能。いつでも何度でも、見たい時に見ることができる。先生方によく質問されることもHow to 動画にしてしまうことで、何度も同じことを説明しなくて済む。

★方策⑮

コーディネーターとしての情報発信の場として役に立った。

★方策⑯

他者参照しながら、自分の意見を入力。忘れないうちに、いつでも「改善点」を入力。⇒随時よりよい意見を拾うことができるようになった。

★今年度の成果

- 1 サイトへの情報の一元化→「毎日、開いて確認」が習慣化
- 2 「アナログでもデジタルでもできるならデジタルで」の意識
- 3 Googleアプリの活用能力の向上
- 4 サイトの更新頻度↑
- 5 チャットの活用による情報共有が当たり前
- 6 研修でのCTの活用が当たり前
- 7 「カエル会議」の実施

★次年度の課題

- 1 サイトの見やすさ(デザイン)
- 2 ICTが苦手な職員へのサポート
- 3 canva等のアプリや生成AIの活用
- 4 サイトの更新頻度のさらなる向上
→情報共有のスピード
- 5 チャットでの連絡が一気に増えたことによる見落とし
- 6 校内研修サイトの運用
- 7 カエル会議で出た意見を次年度に活かす

リーディング DXスクール事業

久喜市立三箇小学校(埼玉県)【協力校】

【取組内容①】クラウドの活用による特別支援学級における外国語活動の充実～MOMINOKI ENGLISH2023 ～

★これまでの本校特別支援学級の英語(もみのきえいご)

- ・各季節ごとのトピック(七夕・クリスマス・節分等)
- ・児童が興味のあるトピック(数・野菜・果物・動物等)
- ・交流で通常学級の外国語活動に参加した後、そのフォロー
- ⇒課題だったのは・・・
- ・どこに基準を置いてレベル設定をしたらよいか難しい
- (ある児童にとっては難しく、ある児童にとっては簡単すぎるものに・・・)
- ・個別のフォローがなかなか難しい
- (ある児童の外国語を指導しつつ、他の児童の他教科の学習を見なければならぬ状況も・・・)
- ・(交流の授業を)欠席してしまうと、その時間の内容が抜けてしまう

★単元設定の背景

本校で一緒に過ごすのがもうすぐ2年になるALT
⇒授業では関わりがあるが、自分たちのことをあまり知ってもらえてないのでは？
⇒もっと自分たちのことを知ってもらおう！

・・・というところから、今年度のもみのき英語は・・・

単元名 「Let me introduce myself」

概要: 下学年(2～4年)と高学年(5・6年)グループに分かれる。毎時間、それぞれのグループの段階にあった自己紹介の表現に色々なアクティビティを通して慣れ親しみ、それを使って自分の紹介を行う。

★方策① Googleスライドを使った学習の進行

本学級では、自立活動でもスライドを使用して学習指導を行っているので、安心して学習に取り組めた。スライドを見ればその時間の学習活動がすぐに分かるので、余計な言葉を削り、簡潔に示すことができた。視覚的優位の児童に合っていると思う。また、単元の初めに型を決めることで、授業準備の時間短縮になった。

★方策② Googleスライドや検索機能を活用した Teacher's talk

毎時間メインのテーマに関連した内容で、児童と対話する際、ただ会話するだけではなく、画像を見せたり、対話で話題に上がったものをその場で検索したりしてみた。苦手な児童でも今、どんなことを話しているのかわかることができた。

★方策③ スライドやジャムボードを活用した Activity

これまでアナログでフラッシュカードを使い行っていた単語の発音練習に、スライドでデジタル化したものをプラスした。一斉での指導後は、スライドを配布することで、自分のペースで発音の練習に使っていった。これまでアナログで行っていた定番のゲーム(ミッシング・ポインティング・クイズゲーム等)を ジャムボードやスライドを使って実践を行った。

★方策④ ドキュメントを活用した Looking back

振り返りでは、ただ紙で書かせるのではなく、項目ごとに児童に発表させ、それを教師がドキュメントに打ち込んだものを電子黒板に投射した。児童名とともに書くことで、児童の発言意欲がわくわくするとともに、苦手な児童は打ち込まれた内容を見て書いていた。また、毎時間の振り返りを蓄積していくことで児童の変容をより捉えやすくなった。

★方策⑤ モジュールでの自己紹介スライドの作成

毎時間学習する表現を使った自己紹介をするためのスライド(ジャムボード)を、スプレッドシートに一元化し、白紙共有した。作成していき詰まった児童達のスライドを参照して、よいところを真似していた。また、簡単に画像を検索して挿入することができるので、オリジナルのスライドを夢中になって作成していた。

★方策⑥ スライドと録画機能を活用した各自の自己紹介練習

学んだ表現を使って、授業では自己紹介文を考える(高学年グループは書く)。その各自作成した文章を教師が読んでいる様子を録画し、これもスプレッドシートに一元化し、共有した。それをお手本とし、各自練習を行うことができ、児童からの質問が減った。自分の自己紹介の動画を各自できるようになるまで繰り返し見て練習できた。また口もとをアップにして撮影することにより正しい発音の仕方を学ぶことができた。

★実践してみて

- ①児童がとても生き生きと学習に取り組んでいた外国語活動が苦手だと感じて児童も、意欲的に学習に取り組むようになった。
- ②初めに簡単な指示を出すだけで、自分たちだけで学習を進められるようになった。(手本の音声聞いて、各自、納得いくまで練習ができる)
- ③モジュールでの指導も並行して行っていたので、じっくり英語の時間をとることができ児童の学習事項の定着の度合いもよかった
- ④児童それぞれのレベルに合った指導ができ、物足りないまたは難しすぎると感じる児童がいなかった。
- ⑤友達のスライドやジャムボードを見て、困っている児童が学習のやり方を理解したところを真似したりしていた。
- ⑥教員側も、児童の学習の進捗状況を把握し、児童への支援を個別に多く行うことができた授業の準備時間も短縮された。

★次年度の課題

- ①Google のアプリを活用したより楽しいアクティビティの実践
- ②個々の段階に合った帯活動の実践
- ③今回の実践を活用した、各学年の交流学級での学習のフォロー
- ④振り返りの方法の選択(各自、紙か端末かを選ばせる)
- ⑤来年度の在籍児童から考える、ICTをフル活用し、個々の児童の実態に合った単元計画の創出